

2022 年度実施概要

学校名

長崎県立猶興館高等学校

採択活動名

「ふるさと平戸未来探究」(普通科)

「課題研究」(理数科)

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. ふるさと平戸未来探究	2	総合的な探究の時間
2. 理数科課題研究	2	課題研究
3.		

取り組みの概要

【ふるさと平戸未来探究】(普通科)

1. 以下の18テーマを各班で設定し、探究活動を実施した。

	分野	テーマ	海洋関連研究
①	第1次産業	長崎の漁業の魅力を伝える	☆
②	第2次産業	空き家を利用するには	
③	第3次産業	平戸の観光の今までとこれから	
④	第3次産業	平戸の名産物を伝えたい	☆
⑤	第3次産業	お金をかけずに美容室を広めよう	
⑥	歴史文化	ジャンガラ	
⑦	歴史文化	戦国時代の平戸	
⑧	福祉・医療・教育	平戸市の高齢者について	
⑨	福祉・医療・教育	理学・作業療法士の需要	
⑩	福祉・医療・教育	言語聴覚士と検査技師の需要と供給	
⑪	福祉・医療・教育	平戸の救急	
⑫	福祉・医療・教育	子どもの命を守る	
⑬	福祉・医療・教育	高齢者の健康を守る	
⑭	福祉・医療・教育	学校統廃合における子どもたちへの対応	
⑮	福祉・医療・教育	保育一子供の食生活一	
⑯	福祉・医療・教育	平戸の少子化問題について	
⑰	行政	平戸の農業と若者離れ	
⑱	行政	平戸の人口減少問題	

2. 活動実態

行政機関・事業所・企業にて、インタビュー・アンケート・体験活動などの実地研修(写真①)後、情報整理・分析・考察などの話し合いを進め、9月に中間発表・11月に本発表を実施。その際、関連機関からの助言・指導を受けた。発表後は、成果物を作成し、関連機関に発信した。

【協力先】

平戸市役所（水産課・都市計画課・観光課・商工物産課・こども未来課・健康保険課・長寿介護課・農林課・企画財政課）平戸市社会福祉協議会、松浦史料博物館、瀬戸市場、綾香水産、平戸市消防署・青洲会病院、平戸市教育委員会、みのりこども園、平戸保育園

3. 成果発表

① 中間発表 令和4年9月13日・20日実施

テーマ班ごとにこれまで探究した内容について発表し、生徒間で質問やアドバイスをを行い、教師や関連機関の助言・指導を受けて本発表への道筋を確認した。

② 最終発表 令和4年11月15日・22日実施

テーマ班ごとに1年間取り組んできた地域の課題を解決・改善するための提言を行った。この探究活動で得られたものを、後日様々な成果物（写真②）として発信することにした。地域の課題や魅力を発見したことで、地域への理解を更に深めることができた。

【理数科課題研究】（理数科）

1. 2年次の4月に以下の研究テーマを設定した。

分野	テーマ	海洋関連研究
数学	S I Rモデルによる新型コロナウイルス感染状況の未来	
化学	海洋マイクロプラスチックの今後の研究について	☆
化学	ゆで卵から生卵へ～尿素による硬タンパク質軟化作用の応用～	

2. 活動実態

各研究テーマに分かれて1年間継続的に研究を行った。マイクロプラスチック班は、くり返し砂浜に調査・採集へ出向き、継続的に調査を行った。

3. 成果発表

① 中間発表 令和4年10月12日に実施した。テーマ班ごとに半年間の研究の途中経過をプレゼンテーションソフトで作成して発表を行った。（写真③）研究テーマ設定の理由、仮説の構築、実験・観察方法の設定、現段階での考察や今後の展望、発展について発表し、生徒・教諭からの質疑応答などから研究上の論理面の瑕疵や改善点を確認した。

② 最終発表 令和5年3月22日に校内発表会を実施した。（写真④）テーマごとにポスター発表を行った。発表ブースを設定し、研究について説明・質疑応答を設定時間内に繰り返し行う形式で実施をした。中間発表のように1回だけではなく繰り返し説明することができ、質疑応答も活発に行われ理解を深めることができた。この発表は、来年度6月の理数科課題研究発表会の代表選考も兼ねており、「海洋マイクロプラスチックの今後の研究」班・「ゆで卵から生卵へ～尿素による硬タンパク質軟化作用の応用～」班の二班が県大会への出場を決定した。

【その他】

佐賀大学連携事業（理数科）

令和4年5月20日と令和5年1月30日に、佐賀大学連携事業を実施。（写真⑤）伊万里にある佐賀大学海洋エネルギー研究センターを訪れ、最先端分野の研究に触れ、実験プラントを直に見ることを通して、科学に関する興味関心を深め、専門的な知識を得る機会となった。

水族館研修（2年生全）

令和4年12月4日に実施した修学旅行で水族館研修を実施した。（写真⑥）いおワールドかごしま水族館において、黒潮に生息する魚類を中心とした生態系についてその希少性とともにも講話を受けた。その後、実際に生物を観察したりふれ合ったりすることで、より理解を深めることができた。